

## 第2章 いのちの持続性と福祉教育・ボランティア学習

### 引用・参考文献

池田幸也 (2014) 市民を育むボランティア学習：ESD からボランティア学習へ，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，24，p. 26-35

市川享子 (2020) なぜ共生社会を創造するサービス・ラーニングの評価研究なのか，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，35，p.6-9

右田紀久恵 (1993) 自治型地域福祉の理論，ミネルヴァ書房

大橋謙策 (1999) 地域福祉，放送大学教育振興会

岡村重夫 (1983) 社会福祉原論，全国社会福祉協議会

後藤聡美 (2022) 多文化交流におけるコンヴィヴィアルな空間の意味〈当事者性の邂逅〉に着目して，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，39，p. 53-66

後藤聡美 (2023) 当事者性の変容を促す実践の特徴と課題—ユース主体のプラットフォームづくりに注目して—，日本社会教育学会編，SDGs と社会教育・生涯学習，p. 114-126

小林洋司，高尾千秋，渡邊一真，松岡広路 (2010) 福祉教育・ボランティア学習推進プラットフォームの学習論的意義と特徴，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，16，p. 32-42

小林洋司 (2014) 人権をめぐる学習活動といのちの持続性：ESD とハンセン病問題学習の関係性に注目して，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，24，p. 45-53

小林洋司 (2022) 福祉教育・ボランティア学習における「対峙」の創生—「多文化」共生の実質化を目指して，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，39，p. 67-81

齊藤ゆか (2009) ESD と生涯学習の関連—ESD からみる福祉教育・ボランティア学習研究の方向性—，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，14，p. 24-35

佐藤陽 (2004) 福祉教育・ボランティア学習実践による地域づくりを構想する子ども・青年の学びの支援者と仕組みづくり，日本福祉教育・ボランティア学習学会年報，9，p. 128-151

佐藤慶幸 (1991) 生活世界と対話の理論，文眞堂

諏訪徹 (2014) いのちの持続性という観点から問う福祉教育・ボランティア学

習, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 24, p. 17-25

高田知紀 (2014) ESD・地域づくり支援における学びの構造：市民主体の持続的空間マネジメントのプロセスに注目して, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 24, p. 61-68

堤拓也 (2022) ワークキャンプにおける複数の役割経験から生じるゆらぎの意義 まなびほぐしのプロセスに注目して, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 39, p. 114-128

長岡素彦 (2009) 学びあい, つながる ESD 持続可能な開発のための教育－福祉教育・ボランティア学習と ESD の実践者の立場から－, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 14, p. 49-59

名賀亨 (2014) いのちの持続性とワークキャンプ運動：いのちの持続性を観点としたワークキャンプ実践分析, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 24, p. 36-44

日本ホリスティック教育協会・吉田敦彦他編 (2006) 持続可能な教育社会をつくる－環境・開発・スピリチュアリティ－, せせらぎ出版

野口由輝子 (2014) スピリチュアリティと福祉教育・ボランティア学習の連関, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 24, p. 69-77

濱西栄司 (2016) トウレーヌ社会学と新しい社会運動理論, 新泉社

原田正樹 (2008) 地域福祉のシステム構築と主体形成の視点, 大橋謙策・手島陸久・千葉和夫・辻浩編著, コミュニティソーシャルワークと自己実現サービス, 万葉舎, p. 196-213

原田正樹 (2012) 福祉教育・ボランティア学習における創造的リフレクションの開発, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 20, p.41-52

松岡広路 (2006) 福祉教育・ボランティア学習の新機軸－当事者性・エンパワメント, 日本福祉教育・ボランティア学習学会年報, 11, p. 12-32

松岡広路 (2009) 福祉教育・ボランティア学習と ESD の関係性－福祉教育から「福祉教育・ボランティア学習」・ESD へ－, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 14, p. 8-23

松岡広路 (2013) 持続不可能な社会を変える新しい社会教育, 日本社会教育学会 60 周年記念出版部会編, 希望への社会教育, 東洋館出版社, p. 120-137

松岡広路 (2014) 新しい価値枠としての〈いのちの持続性〉, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 24, p. 6-16

松岡広路 (2023) SDGs 運動に呼応する学習・組織論, 日本社会教育学会編,

SDGs と社会教育・生涯学習, p. 62-74

松岡広路 (2023) 〈ふくし〉を実質化する福祉教育・ボランティア学習とは, ふくしと教育, 36, p. 62-67

宗像巖 (1983) 水俣の内的世界の構造と変容—茂道漁村への水俣病襲来の記録を中心として, 色川大吉編, 水俣の啓示 上巻, 筑摩書房, p. 91-154

妻鹿ふみ子 (2009) 日本語ボランティアに求められる福祉的視座—持続可能な多文化共生社会構築に向けて, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 14, p. 36-48

渡邊一真 (2014) いのちの持続性の視座から捉える福祉教育・ボランティア学習の実際, 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要, 24, p. 54-60

Crossley, N. (2002) Making Sense of Social Movements, University Press UK Limited=西原・郭・阿部訳 (2009) 社会運動とは何か 理論の源流から反グローバルイズム運動まで, 新泉社

Hustedde R. J. and Ganowicz J. (2002=2021) The Basics: What's Essential about Theory for Community Development Practice?, in Waltzer N. and Blair R. and Phillips R. ed. (2021). 50 Years of Community Development Vol. 1, Routledge, p. 32-50

Habermas, J. (1981) Theorie des Kommunikativen Handelns, Suhrkamp Verlag =丸山高司・丸山徳次・厚東洋輔・森田数実・馬場孚瑳江・脇圭平訳 (1987) コミュニケーション的行為の理論 (下), 未来社

Jickling, B. and Wals, A. E. J.(2008) Globalization and Environmental Education: looking beyond sustainable development, Journal of Curriculum Studies, 40, p. 1-21

Ledwith, M. (2011) Community Development: A Critical Approach 2nd Ed., Polity Press

Melucci A. (1989) Nomads of The Present; Social Movements and Individual Needs in Contemporary Society =山之内靖 訳 (1997) 現代に生きるノマド, 岩波書店

Rittel, H. and Webber, M. (1973) Dilemmas in a General Theory of Planning., Policy Sciences, 4, p. 155-169

Touraine, A. (1978) La Voix et le Regard, Seuil =梶田孝道訳 (2011) 新装 声とまなざし—社会運動と社会学, 新泉社